

『とめ中高生学習スペース：SUKOYAKA』開設準備と学習支援報告

3.11 の震災以降、被災地では大人の生活復旧が優先され、特に中・高校生の学びの権利が保障されない状況が続いている。狭い仮設住宅には、彼らが勉学に集中するスペースが無く、また気の合う友人同士が語り合うような居場所も失われてしまったのである。その結果、被災地では、中・高校生学力の低下、不登校の増加などが顕著となってきた。

このような状況を改善するための一つの試みとして、東京に本部を置く「NP0 法人こども福祉研究所」が、南三陸町の中・高校生の殆どが避難生活をしている登米市佐沼に、『とめ中高生学習スペース：SUKOYAKA』を開設することとなり、被災地の大学として、本学もその開設準備と中・高校生の学習支援を行うこととなった。

この施設の開設日となった 2012 年 12 月 25 日は、仙台市在住の学生 3 名、登米市在住の学生 2 名、一関市在住の学生 1 名、および教員 1 名が、11 時 30 分に施設に到着し、13 時までに開設準備を行った。また、初対面の中・高校生が、リラックスして話ができる状態となるまで、およそ 2 時間の間、学生がファシリテーターとなりグループのサポートを行った（下記の写真は、学生による開設記念クリスマス会の会場作り）。

なお、2012 年 1 月 8 日より、この施設は本格運用となるが、本学にも南三陸町で被災し、現在登米市の仮設住宅に避難している学生がいることから、これらの学生を中心に、学習支援を行うとともに、中・高校生の身近な先輩として、彼らの話し相手となっていく予定である。

